

1. 開催年月日：令和6年5月14日(火) 15時～
2. 開催方式：対面、web会議ツール、書面にて実施
3. 委員(順不同・敬称略)

出席：鈴木 嘉一・宮崎 美紀子・尾形 敏朗・山川 鉄郎・倉田 真由美・馬場 康夫  
web会議ツールにて出席：神田 由築 事前意見を提出：砂川 浩慶

放送事業者

代表取締役社長：石原 隆

専務執行役員：山口 真

常務執行役員：宮川 朋之

編成局長：小川 英洋

編成部長：三品 貴志

制作部長：秋永 全徳

web会議ツールにて出席：三瓶 祐毅（編成部）、八巻 洋平（編成部）

番審担当：澤 尚志 碓井 恭子（記）

#### 4. 議題

- (1) 審議事項：時代劇専門チャンネル 橋ものがたり「約束」(2024年:オリジナル時代劇)
- (2) 報告事項：日本映画専門チャンネル 「菅原文太列伝」について

#### 5. 議題（1）

時代劇専門チャンネルでは、江戸の橋を舞台に市井の男女の喜怒哀楽を描く藤沢周平の名作短篇集『橋ものがたり』から、「小さな橋で」「吹く風は秋」「小ぬか雨」（すべて2017年）、「殺すな」（2021年）の4作品を過去映像化した。

この度、傑作と名高い短篇「約束」をテレビドラマとして初制作し、2024年2月にテレビ初放送した。監督・脚本は国民的ドラマ「北の国から」シリーズの杉田成道。主演は歌舞伎界のホープ、片岡千之助。さらに、話題作が続く北香那、映像作品初挑戦となる元宝塚歌劇団雪組トップスターの望海風斗も出演。

放送前には映画館で期間限定の特別上映を行い、OA時は舞台挨拶やキャストのコメントも併せて放送した。また、関連編成として過去の「橋ものがたり」4作を含む藤沢周平原作オリジナル時代劇を一挙放送、さらに望海の宝塚時代の公演等を特集放送した。

## 【審議のポイント】

本作への感想、意見について。

### 6. 議題（1）審議内容 ※文中敬称略

- ・時代劇らしくないオープニングと、人間くさく生々しい町民の物語が斬新。武士が登場しない時代劇に可能性を感じる。若手のキャスティングがよかった。優柔不断な幸助に片岡千之助が合っているし、北香那演じるお蝶が最後に流す涙が美しく、こんなに素敵なお女優がいるのかと驚いた。なにより、妾のおきぬを迫力満点で演じた元宝塚の望海風斗が素晴らしかった。
- ・チャンバラがなく、人間の価値観に着目した珍しい時代劇。職人のあるべき姿を借りて、人生の価値観や思いやりの心を描きたいという気持ちが伝わり、気持ちよく共感できた。山口県岩国の錦帯橋での撮影は、美しい意匠をこだわりの映像で見せてくれた。気になったのは幸助が、自分の罪については黙ったままお蝶が告白した過去は許す、という上から目線の展開。
- ・「藤沢作品の傑作を初映像化」という宣伝文句から、しっかりと作品を想像していたので見事にだまされた。オープニングでクリムトの絵画を使ったり、常軌を逸した量のろうそくで子どもが遊んだり、前半はアバンギャルドな演出に驚きの連続だった。お蝶役の北はラストの泣きの芝居がよかった。片岡は芝居のまねごとをするシーンのセリフ回しが上手すぎて、庶民の職人見習いなのに不自然。望海は和ものが得意な宝塚歌劇団雪組出身。優等生的で端正なスターだったが、今回は大胆ではすっぱな役柄。本人は「大冒険だった」と語っていたそうだが、成功している。
- ・ラストシーンでは自然に涙がこぼれた。時を経て、過酷な経験を積んでも変わらぬ二人の「約束」の描き方にさすがの手練れを感じた。素晴らしい作品に感謝申し上げたい。日常的に学生と接していると、時代劇から何を学ぶべきか分からないとの声を聞く。若い視聴者を育成すべく、時代劇を放送するにあたり現代との比較や見方の解説・ガイド番組を考えてほしい。（本作ならば“女郎”についての解説とか）
- ・藤沢周平作品を読んだこともなく、まっさらな状態で「約束」を鑑賞した。音楽も演技も映像も素晴らしい。チャンバラのない時代劇は新鮮で、こういう構成もありなのかと驚いた。冒頭で江戸は100万人都市とあるが、番組中橋や寺の向こうに山が見えてしまい、大都市・江戸には思えなかった。ベテラン俳優が親役で出演しているが、年上過ぎて違和感を持った。
- ・主演二人にフレッシュ感があつた。特に『春画先生』で注目された北は、清純さと妖艶さを合

わせ持つ俳優で、彼女の出演は収穫だった。主人公のナレーションで始まるのは杉田監督の「北の国から」のよう。純と幸助が同じような役柄なのでつい重なって見え、素直に心情に乗れた。藤沢の短篇を膨らませ2時間のドラマにしたようだが、追加部分には賛否があるかもしれない。また蝶の髪飾りから蝶が飛び立つアニメーションは時代劇になじまないのでは。錦帯橋は有名で立派な橋だが、設定にリアリティがなく違和感を持った。素朴な橋でもいいのでは。

- ・この作品は心象風景を反映した美しい描写やキャスティングなど素晴らしいところも沢山あるが、作品のターゲット層と言われる、いまの40～50代女性に受け入れられるだろうか、と思った。ピュアな初恋、幼すぎる恋が時を経てやがて橋の上で再び巡り合うというストーリー自体は美しい。しかし作品全体から感じられる貞操観や、(その貞操観はお蝶にも幸助にも等しく投影されていたとは思ふものの、やはり)女性の幸せが「おかみさんになること」に収斂されていく描写の仕方は、確かに岡場所の女郎の設定なのでそういうのも有りではあるが、女性視聴者が見てどう思うだろうか、と気になった。二人の純愛はともすれば、女性はこうあらねばならない、という裏返しの貞操観のようにも映る。そこに居心地の悪さを感じ、男性の作り手が男性のためのロマンを描いている、と思った。
- ・江戸は橋と坂からなる都市だと言われる。坂の上の高台には武士が住み、川や橋がある下町には町人が住んでいる。武士が登場しないが、チャンバラのない時代劇もありだと、この作品が示したと思う。5年後に会うと約束した若い二人が、人は変わるのか、変わらないのかと自問自答しながら生きる姿を、私も同じ気持ちで観ることができた。だからこそ、ラスト近くで二人が橋で別れたにも関わらず、翌朝、幸助がお蝶の長屋を訪ねたシーンは腑に落ちなかった。彼が居場所を突き止めた布石がないとあれほど感動的なラストが余韻として残らない。

これに対して弊社からの回答は以下の通りであった。

- ・杉田監督は舞台となる橋を、多くの人が行き交う駅のような場所とイメージして錦帯橋での撮影を決めた。あの高低差を二人の恋愛模様と5年間の浮き沈みに生かすよう演出している。キャスティングは、片岡、北、望海といった若手キャストの脇を、監督が信頼するベテランが固めている。望海は映像作品初出演。宝塚ファンの女性に観ていただけたらと考えていた。
- ・地上波の民放で時代劇の放送が少なくなった今、本局が時代劇制作に力を入れなくてはいけない。「約束」は江戸を舞台にした若い男女のラブストーリーであり、チャンバラのない時代劇もバリエーションの一つとしておもしろい。江戸時代を舞台にした人間ドラマを押し出す可能性

が見えた作品だった。今後もひと味違う時代劇に積極的にトライしたい。

## 7. 議題（2）報告事項

日本映画専門チャンネル 「菅原文太列伝」について

5月に放送スタートした「菅原文太列伝」では、逝去して10年経つ名優・菅原文太の代表作を毎月1本ずつ放送する。ラインナップはほぼ70年代の東映作品で統一した。約50年前に作られた任侠映画や、4K化テレビ初放送となる『トラック野郎』を若い視聴者にも楽しんでほしい。今回は映画のみで編成したが、名作ドラマも多いので、機会があれば放送していきたい。

## 8. 連絡事項

次回第90回番組審議委員会は、2024年8月20日(火)15時より、オフライン、オンラインのハイブリッドにて開催予定。

以上